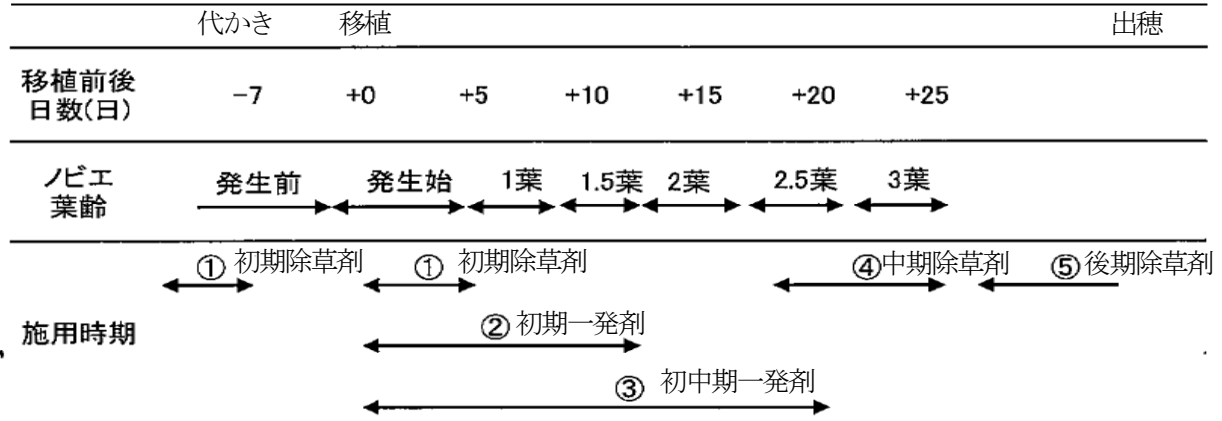


# 水田除草の徹底を！！

雑草の発生は、収量や品質の低下につながります。そこで、難防除雑草などの除草処理を徹底するためには、施用適期を把握して初中期一発剤や中後期剤等を効果的に施用することが重要です。

## ●移植水稻用除草剤の分類

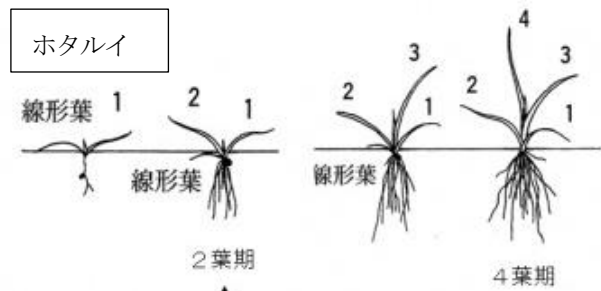
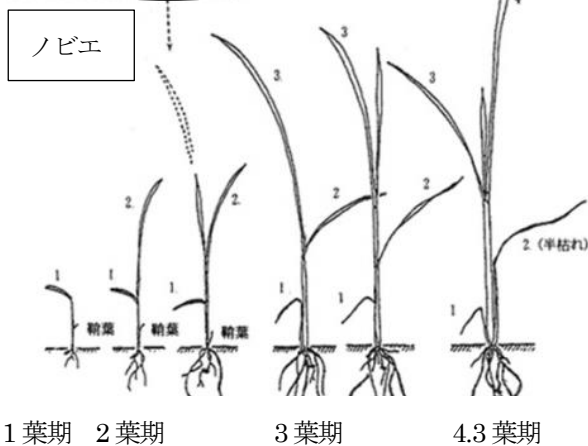
参考：山梨県 病害虫防除基準・農薬適正使用指針



- ①：初期除草剤 代かき直後～田植え7日前まで、もしくは田植え直後～ノビエ1葉期までに使用する剤。
- ②：初期一発剤 移植直後からノビエ1.5～2葉期までに使用する剤。
- ③：初・中期一発剤 移植直後からノビエ2.5～3葉期までに使用する剤。
- ④：中期除草剤 初期剤等による防除後の後発雑草に対して移植後20～25日に使用する剤。
- ⑤：後期除草剤 初期剤～中期剤による防除後の残草に対して使用する剤。

## ●雑草葉齢の判断基準

展開終了時の大きさを予想して10等分し、葉齢を判断する。  
この場合は2.5葉期



通常の一発除草剤の限界葉齢

参考：千葉県HP

(<https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/network/field-h27/sui-2015-04.html>)

峡南農務事務所 農業農村支援課  
(峡南地域普及センター) 生産振興担当  
055-240-4131

※除草剤は使用時期をよく確認して使いましょう。